

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 岡山市立福島小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒702-8046

E-mail fukusimas@city-okayama.ed.jp

Website _____

児童生徒数 男子 194 名 女子 168 名 合計 362 名
 児童・生徒の年齢 7 歳～12 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

1年を通して、3～6年生は総合的な学習の時間で、下記のテーマについて学んできた。

3年生「地域に暮らす高齢者」

「見つけようけやきのひみつ なかよくなるろうお年よりと」

4年生「障害のある人の暮らし方と生き方」

「みんながくらしやすい町にするために」

5年生「地域の自然環境と環境保全」

「地球で起きている問題について調べ私たちにできることはないか考えよう」

6年生「世界の子どもたちの現実と国際協力」

「世界の子どもたちの生活について考えよう」

学習活動は①～③の手順を踏み、体験を重視した実践的な学習を意識して指導した。

- ① 本やインターネットで調べたり、体験談を聞いたりする「知識の習得」
- ② 知識を元実践する「体験学習」
- ③ 活動を振り返り、広く地域に伝える「まとめの学習」

③の活動の一つとして、2月に「福島子どもフォーラム」を開催した。

(内容) 日時… 2月18日(土) 9:00～11:00に
場所… 福島小学校 体育館
参加対象… 全校児童、保護者、地域の方

(3年生) 見つけようけやきのひみつ なかよくなるろうお年よりと



地域の特別養護老人ホーム「けやき」に暮らす高齢者との交流を深めた。

2度にわたり施設を訪れた。最初の訪問は設備を学んだ。座ったまま入ることができる機械浴と呼ばれる特殊な浴槽や、徘徊する人が無許可で外に出てしまわないように自動ドアを制御する装置等を知った。

2度目の訪問は、交流を目的としていた。すごろくやカルタ等の昔遊びをしたり、お話をしたりした。一緒に遊ぶ中で、「目が見えにくい人のために字を大きく書けば良かった」「耳の聞こえにくい人のために大きい声で話しかければ良かった」など反省も出た。

集団で訪問する予定はないが、個人的に訪問したり、自分の身近な高齢者と接する時に反省を活かすことができると思われる。

(4年) みんながくらしやすい町にするために



体の不自由な人だけでなく、自分たちにとっても過ごしやすい町とはどんなものなのかを実践を交えながら学んだことを発表した。

例えば、地域に設置された点字ブロックはどのような場所にあるのか、そしてその上には自転車などの障害物が置かれていないかを見て回った。更に音の鳴る信号機を見つけ、無意識に生活していると気づきにくい工夫があちこちにあることを知った。

目の不自由な人の体験談を聞く機会も得られ、音声で知らせるパソコン等の自助具を活用していることや、歩行を介助する際のポイントも学んだ。

この他にも、車いすの操作や点字を実践しながら学んだ。下学年に休み時間に使い方を教える活動もした。

(5年生) 地球で起きている問題について調べ 私たちにできることはないか考えよう



地球に住む一員として、日々の生活で見直すところはないかを考える発表をした。

地球温暖化、自然破壊、水不足の問題など各自がテーマを設定して調べ、発表した。

調べたことを図やグラフを使い、一人一人が分かりやすくまとめた。例えば温暖化の原因を円グラフにすることで、「電気加熱」が最も大きい25%であることを示したり、世界地図を色分けすることで、安全な水を飲むことができる地域を示したりした。

他にも「木材の商業伐採により、すみかを失った生物が増えていること」「地球温暖化によって氷が溶けて生態系が変わってきていること」「乾燥化が進む一方で、大雨が降る所もあり洪水の心配が出ていること」「洪水により安全な水を確保するのが難しくなる地域があること」等、ひとつの事象から複数の問題へと影響が広がっていることをつかむことができた。

また、企業（DOWA バイオディーゼル、明和製紙）の取り組みの話を聞いて、環境についての理解を深めることができた。

これらの経験から、節水、電気の消費量を減らす、4Rを推進する、マイバッグの持参、紙コップなどはリサイクル品を買うようにするなど自身の生活への意識変革も見られた。

学校でも全校児童に呼びかけて、空き缶集め等、リサイクルを推進する活動を広げている。

